

消費動向調査 VS 景気ウォッチャー調査 3月の結果

- 金曜日 - 16 4月 2021

昨日ご紹介した耐久消費財のデータは消費動向調査の一環として発表されたものですが、今日は消費動向調査と景気ウォッチャー調査の対比をご紹介します。

消費動向調査は、その名の通り消費者を対象にして様々な質問をしてその回答により消費者態度指数を計算しています。一方景気ウォッチャー調査は、景気に敏感な人たちを選んで調査をしていますが、消費動向との違いは、物を作る側や売る側の事業者がかなり入っていることです。極論すると消費動向調査は消費者、景気ウォッチャー調査は事業者の意識調査ということになります。実際の調査票はほとんど同じです。

DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、DIを算出している。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

I 消費者としての意識についておうかがいします

次の中から、あてはまるものを1つ選び、番号に○印をつけてください。

- (1) あなたの世帯の暮らし向きは、今後半年間に今よりも良くなると思いますか、悪くなると思いますか。

良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
1	2	3	4	5

- (2) あなたの世帯の収入の増え方は、今後半年間に今よりも大きくなると思いますか、小さくなると思いますか。

大きくなる	やや大きくなる	変わらない	やや小さくなる	小さくなる
1	2	3	4	5

上が景気ウォッチャーの質問票、下が消費動向調査の質問票ですが、ほぼ同じと言ってもよいと思います。あえて違いを探せば消費動向調査は今後半年間と期間を区切っているのに対し、景気ウォッチャーは期間を提示せず現在の状況を聞いていることですが、後でご紹介するように、それは回答に影響を与えているとは思えません。回答から集計する方法も同じなのですが、得られた指数ではこれまでご紹介しているようにいつも差が出ています。

第1表 消費者態度指数と消費者意識指標(二人以上の世帯、季節調整値)

	令和2年 (2020年)				令和3年 (2021年)		
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
消費者態度指数	32.6	33.5	33.5	32.0	29.9	33.9	36.1
(前月差)	3.2	0.9	0.0	▲1.5	▲2.1	4.0	2.2
暮らし向き	35.0	35.8	36.6	34.9	32.4	36.2	38.0
(前月差)	3.5	0.8	0.8	▲1.7	▲2.5	3.8	1.8
収入の増え方	34.8	35.3	35.5	35.1	33.6	35.6	37.2
(前月差)	2.1	0.5	0.2	▲0.4	▲1.5	2.0	1.6
雇用環境	25.9	27.3	26.7	24.0	21.5	27.7	31.0
(前月差)	4.9	1.4	▲0.6	▲2.7	▲2.5	6.2	3.3
耐久消費財の買い時判断	34.7	35.5	35.1	34.1	32.0	36.1	38.1
(前月差)	2.5	0.8	▲0.4	▲1.0	▲2.1	4.1	2.0
資産価値	35.3	35.2	35.4	35.3	35.0	39.4	40.3
(前月差)	1.5	▲0.1	0.2	▲0.1	▲0.3	4.4	0.9

(注) 消費者態度指数(季節調整値)は、「暮らし向き」、「収入の増え方」、「雇用環境」、「耐久消費財の買い時判断」の4項目の消費者意識指標(季節調整値)を単純平均して算出している。

調査基準日：2021年3月15日

これが消費動向調査3月の結果です。全体的に2か月連続の改善ですが、総合指数である消費者態度指数は36.1です。これに対し景気ウォッチャーの数値はずっとよい数字です。

図表1 景気の現状判断DI(季節調整値)

(DI)	年 2020			2021			(前月差)
	月 10	11	12	1	2	3	
合計	53.0	43.8	34.3	31.2	41.3	49.0	(7.7)
家計動向関連	54.4	43.2	32.1	28.0	38.9	47.3	(8.4)
小売関連	53.0	43.1	36.0	30.8	40.8	49.7	(8.9)
飲食関連	59.5	34.6	16.1	15.1	31.6	43.8	(12.2)
サービス関連	57.7	45.7	27.1	22.8	35.7	43.3	(7.6)
住宅関連	45.9	43.0	37.4	42.0	44.1	46.1	(2.0)
企業動向関連	50.5	46.0	39.9	39.0	45.8	50.8	(5.0)
製造業	51.0	47.4	45.3	43.7	48.5	51.4	(2.9)
非製造業	49.6	44.7	36.0	35.7	43.6	50.6	(7.0)
雇用関連	49.6	42.6	37.4	34.9	47.3	56.9	(9.6)

調査期間：2021年3月25日～31日

総合指数である合計の値を見ると49.0となっています。ところが今年の1月の指数をみると消費動向32.0なのに対し景気ウォッチャーが31.2と逆に消費動向の方が若干高い値になっています。つまり消費動向が低め安定なのに対し、景気ウォッチャーは、上振れしやすいという特徴があります。この傾向は両者のグラフを時期をそろえて並べるとよくわかります。

